

学校目標・経営方針		心のゆたかな人間を育てる。(社会で活躍できる、地域に貢献できる人づくり)	
本年度の重点目標	個別最適な学びにつながるBYODの活用	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	将来の進路選択に向けたキャリア教育の充実		B 概ね達成できた。(6割以上)
	学習と生徒会活動が相乗効果をもたらす教育の実践		C 不十分である。(4割以上)
	将来に向けて社会に目を向ける態度の育成		D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立富士河口湖高等学校校長 加藤 幸一	
評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
番号	評価項目	本年度の重点目標	年度末評価(2月13日現在)
		具体的方策	自己評価結果 達成度 成果と次年度への課題・改善策
1	個別最適な学びにつながるBYODの活用	① わかりやすく、学習意欲を高める授業となるようにICTの効果的な活用に努める。	B ・授業におけるICTの活用は、各教員の取組により活用頻度が向上し、生徒の学習意欲の向上につながっている。 ・BYODの活用は、生徒の主体的な端末使用が増え、生徒・保護者からの評価も向上きである。一方で、授業準備等の負担から、教員側の取り組みには課題がある。 ・Classiの活用を促した結果、生徒・保護者から一定の評価は得られているものの十分とは言えない。また、学習機能における教員の利活用には課題が残っている。
		② 授業や総合的な探究の時間において、調べ学習やレポート作成、プレゼンテーションなど、生徒がICT端末を効果的に活用できるよう努める。	
		③ 学力向上につながるよう授業や家庭学習においてClassi(クラッシー)の学習動画やAIドリルなどに取り組むよう努める。	
2	将来の進路選択に向けたキャリア教育の充実	① 調べ学習や講演会、校外学習などを通して、将来の職業や高校卒業の進路について考える機会の充実に努める。	B ・生徒から高い評価が得られており、生徒の進路に対する意識や関心を高めることにつながっている。保護者の評価も上向いている。 ・各学年に応じた進路指導により、進路行事については生徒および教員から好評価が示されている。一方で、保護者の評価はやや低く、今後は情報提供の工夫が課題である。
		② 個に応じた適切な進路選択ができるよう、進路相談やカウンセリング、三者懇談などの充実に努める。	
3	学習と生徒会活動が相乗効果をもたらす教育の実践	① 学習との部活動の両立が図れるよう、メリハリのあるバランスのとれた活動計画を立て、見通しを立てて活動するよう努める。	A ・部活動ガイドラインに沿って年間活動計画を作成し、概ね計画に基づいた運営を行ってきた。その結果、部活動と学習の両立が図られていると捉えている。 ・生徒・教員共に生徒会活動や学校行事に対して生徒が意欲的に取り組んでいると捉えているようである。
		② 生徒が主体的で意欲的に生徒会活動や学校行事に取り組めるよう努める。	
4	将来に向けて社会に目を向ける態度の育成	① 各種講演会や朝読書、昼のニュース、読書会などを通して、幅広い教養やゆたかな心、を育むよう努める。	A ・朝読書の取組により、落ち着いた学校生活が定着しつつあり、読書習慣の少なかった生徒も本に親しむ姿が見られるようになっている。 ・探究活動では、グループで役割を意識した協力的な学習が進み、生徒自身が設定した課題に主体的に取り組むことで、キャリア教育の観点からも効果が見られる。
		② 授業や総合的な探究の時間(KIP)などにおいて、社会における諸課題に目を向け、論理的思考力や課題解決力が身につけられるよう努める。	

学校関係者評価	
実施日 (令和8年3月24日)	
評価	意見・要望等
3	BYODの活用が進み、生徒一人一人の理解度に応じた学びが充実してきていることは大きな成果であり、生徒・保護者の評価やアンケート結果からも、その効果が確認できる。生徒は小中学校段階からICT機器に慣れており、主体的に学習へ取り組み姿勢が育っている点も評価できる。一方で、授業準備や家庭学習への活用、端末を十分に用意できない生徒への対応など、教員の負担や運用面の課題も指摘されている。ICTはあくまで道具であり、教科特性や学習場面を意識した活用が重要である。得意な生徒や教員が活用を牽引する体制づくりや、家庭での使い方の共有、学校全体で負担を軽減する仕組みづくりを進めることで、個別最適な学びのさらなる充実が期待される。
	子どもたちが将来を主体的に考えられるよう、早期からのキャリア教育の充実が強く求められている。職業講話や体験学習など、実社会や地域につながる学びは生徒の関心を高め、進路意識の形成に有効である。一方で、個々の興味や理解の差に応じた相談対応には難しさもあり、担任ごとの差や情報提供の不足を指摘する声も見られる。進路指導では、きめ細かな面談や心理的支援を含めた体制の充実が重要であり、生徒一人一人の自己理解や価値観を深める指導が納得感のある進路選択につながる。地域に根ざしたキャリア教育を小中高で連携し、保護者や地域を巻き込みながら継続的に推進するとともに、成果や取組を積極的に発信していくことが今後の課題である。
	生徒会活動や委員会活動、部活動を通して培われる責任感やリーダーシップは、学習意欲や学業面にも好影響を与えており、学習と学校活動の両立が図られている点は大きく評価できる。河口湖高校は文武両道を実現しやすい学校としての強みがあり、生徒の主体性・自主性を育てるバランスの取れた教育実践が行われている。部活動では外部指導者の活用やガイドラインの共有が安心感につながる一方、生徒数減少による運営上の課題から、活動の精選も今後の検討課題である。生徒会行事や部活動の成果は高く、教職員が一体となった支援も印象的であるが、その背景には教員の負担も想定される。今後は、生徒の自己管理能力育成や体制の工夫を進め、学習・生徒会・部活動が相乗効果を生む教育の継続が期待される。
4	子どもたちが将来を見据え、社会の一員として主体的に考え行動できる力を育むため、探究活動や講演会、読書活動などを通じた社会理解の深化が重視されている。専門家による講話やグループ探究は生徒に良い刺激を与え、課題発見力や協働する力の育成につながっている。朝読書の定着により活字に親しみ、表現力やコミュニケーション力が養われている点も評価できる。一方で、新聞やニュースに触れる機会が減少する中、高校段階で社会情勢や地域課題に向き合う学習の意義は大きい。KIPを中心とした三年間を見通した計画的な取組は、社会への関心を高め、将来の進路や生き方を考える基盤となっている。今後は、地域教材の活用や関係機関との連携をさらに深め、生徒が地域課題を提案・発信できる実践的な学びの充実が期待される。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。